

陸上部の助っ人として記録会に出場したら、三種競技で県大会で優勝し、東北大会でも優勝してしまったんです。当時、新聞記者のインタビューを受け

の延長でしかない。グラウンドが違っただけです。現役部員たちには、佐々木順一朗監督の下で積み重ねた練習を信じ、そのプレーをそのまま出すつもりで臨んでほしいですね。

3年生の春のことでした。当時は週末に練習試合をしていたんですが、6番打者をまかされた私は、土曜の試合でまったく打てなかった。ほかの部員たちが帰宅した日没後も、私だけ室内練習場で居

翌日の練習試合の直前、打順を発表され驚きました。「4番、小川」でした。絶対打たなければ、と打席に立ったんですが、余計に空回りしてしまいました。最後は交代させられ、この時ばかりは自分が

てくれていました。私たちの代は上級生になって初めて迎えた秋季県大会で初戦敗退し、9月末から冬の練習メニューが始まりました。こんな世代はなかなかないと思うのですが(笑い)。

た夏の県大会。決勝の相手も東北高でした。この日のために練習を重ねてきた私たちは中盤に先制し、6-4で勝つことができたんです。仲間とともにあきらめなければ、夢はかなうことを身をもって知りました。

本気で制覇を目指せ

小川 匡仁さん(32) / 2000年度卒業

残り練習を続けていました。しばらくは「監督の佐々木順一朗先生が現れた。帰宅しようとして練習場の明かりに気づいたのでしょう。」「明日もあるんだから、もう帰らなさい」と言われました。

ふがいなく、ベンチの隅で泣きました。佐々木先生は選手を殴って指導することはありませんでしたし、口数も多くありません。でも、私たちをしっかりと見ていて、野球に臨む姿勢を評価し

当時は東北高が強かった。プロ入りした後藤伸也さんや雄平さんがいて、私たちは翌年の春季県大会の決勝で0-14、同東北大会の決勝で0-9と完敗していました。最後の甲子園をかけ



おがわ・まさひと 青森県弘前市出身。国立弘前大付属中時代は軟式野球で全国中学校体育大会に出場。岩手医科大学卒。仙台市宮城野区にある「ひまわりデンタルクリニック」院長を務める。

現役部員たちには、補欠も含め全員が、本気で全国制覇を目指してほしい。勝ちにこだわれ、という意味ではありません。本気で全国制覇を目指せば、その過程で得られることがたくさんあるからです。その体験こそ、永遠の財産になると思うからです。

秀光中等教育学校は今年創立20周年

公妻

天光中等教育学校は今年創立20周年